



第 2 6 号  
令和3年1月12日  
岩手県長寿社会課

## ～北上市黒岩地区の助け合い活動について～

生活支援コーディネーター現地研修会 の巻

県内全市町村には、地域住民による見守り等の生活支援サービス創出等を担う生活支援コーディネーターが配置されていますが、その活動の充実が課題となっています。

県では、今年度新たに、生活支援コーディネーターの現地研修会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

### いざ、北上市黒岩地区へ！



現地研修会の取材をすべく、取材班が向かったのは、北上市黒岩地区！

北上市の東部、北上川東側の川沿いに位置し、周辺には、田んぼやりんご畑がひろがる、のどかな農村地帯の一角「黒岩まんなか広場」にお邪魔しました。

研修会は、10/19（月）と10/22（木）の2回行われましたが、取材班の業務都合により、10/22（木）に取材を敢行しました。

当日は、県内13市町村から21名の参加があり、会場となった「わくわく夢工房」は、かなりの盛況ぶりでしたが、手指消毒液の設置や受付での検温、窓や扉の開放など、新型コロナウイルス感染症への対策は、しっかり対応していただきました。

### 助け合い活動の取組について

はじめに、研修会の開会に当たり、「特定非営利活動法人あすの黒岩を築く会（以下、「NPOあすの黒岩を築く会」といいます。）」の菅原敬夫常務理事兼理事長職務代理から、歓迎のごあいさつと黒岩地区のご紹介をしていただきました。

その後、NPOあすの黒岩を築く会の小田島光安事務局長から、助け合い活動の取組について、NPO法人設立の経緯や、黒岩地区での無償輸送支援、高齢者の居場所づくりの活動など、ときおりユーモアを交えながら終始和やかな雰囲気でお話しいただきました。



菅原敬夫常務理事兼理事長職務代理

### （NPO法人設立の経緯）

平成 18 年度から、黒岩自治振興会が、黒岩地区交流センターの指定管理者となったことをきっかけに、平成 20 年度の国の補助金「農山漁村（ふるさと）地域力発掘支援モデル事業」採択に向けて、「あすの黒岩を築く地域協議会」を設立したのがはじまりだそうです。

平成 21 年には、地区の住民、全世帯からの寄付により、黒岩自治振興会が農協支所の施設・土地を取得して、地域コミュニティの拠点となる「黒岩まんなか広場」を開設。この広場の有効活用を図る運営主体として、平成 24 年に「あすの黒岩を築く地域協議会」を母体に、「NPOあすの黒岩を築く会」が設立され、現在まで地域振興活動を続けられています。

小田島事務局長は、地区交流センターが指定管理に移行した際の初代事務局長を務められました。その当時を振り返り、「何も無いところから地域づくりを行っていくということで、体力的には苦しかったけれど、気持ち的には高揚し、とても楽しかったし、やりがいもあった。」とうれしそうにお話しされていたのがとても印象的でした。



小田島光安事務局長

### （高齢者の居場所づくり）

「黒岩まんなか広場」を開設した際、この広場の有効活用を図るため、次のような活用方策が検討されました。

- ① 各種イベント会場として活用し、憩いの場とすること
- ② 産地直売所を設置し、地産地消が図られる環境の運営と管理
- ③ 取得した建物の活用

このうち、③の取得した建物については、「わくわく夢工房」として活用し、設立当初は、地域の高齢者に昼食を提供するため、食堂の運営とお弁当の配達を行っていたそうですが、お弁当の注文が黒岩地区以外の地域からも寄せられるようになり、人件費や配達コスト等を考えると続けるのが難しくなってしまう、2年ほどでお弁当の配達は一旦休止としたそうです。食堂としてはまだ使えるので、家族が仕事で出かけるために、日中自宅にひとりである地域の高齢者を集めて、「お茶っこ飲み会」をしてはどうかと。そこで、国の「小さな拠点づくり」補助金を活用し、平成 26 年 4 月から高齢者の居場所、サロンとして月 1 回「お茶っこ飲み会」を開催しているそうです。お食事会やおやつ会、歌声喫茶など、その内容も様々です。小田島事務局長曰く、おばあちゃんたちが一番生き生きしていたのは、お化粧講座だったそうです。女性はいくつになっても美への探求心が尽きませんね（笑）。



10/15に開催された「お茶っこ飲み会」の様子

写真提供：(公財)いきいき岩手支援財団

#### (無償移送支援)

「お茶っこ飲み会」には、黒岩地区内でも遠くに住んでいたり、北上市のコミュニティバスに乗ることができなかつたりというような、なかなか出歩けない、自力で来られない人たちにも参加してもらえるようにと、NPOあすの黒岩を築く会の職員が、しばらくの間自分の車で送り迎えをしていたそうです。

このような状況のなか、北上市都市計画課では、地域内交通への取り組みとして、コミュニティバス利用不便地域の解消を目的とした、コミュニティバス利用拡大のためのバスへの地域連絡乗り合い乗用車の活用を黒岩自治振興会に提案し、自治振興会から、NPOあすの黒岩を築く会へ運転業務を依頼されたそうです。自治振興会と市で、この場所をバスターミナルとして決め、運営に係る諸経費（ガソリン代、保険料、安全運転講習受講費用など）は、その3分の2を市が負担し、残りの3分の1は自治振興会で負担しているそうです。令和元年10月から翌年3月までの試験運行期間中149名（月平均25名）の利用があり、令和2年4月から本格運行しています。「あすくろ号」と名付けられた車両は、週2日（月・木）のコミュニティバスに併せて運行し、「あすくろ号」の運転は、基本的に小田島事務局長のほか、産直で働いている職員3名の計4名で対応し、予備のドライバーとして交流センター長と常務理事にもお願いしているそうです。無償移送なので、本来安全運転講習の受講義務はありませんが、みなさん受講されており、地域住民の安全・安心な移送に務められています。



あすくろ号の御利用者（10/15）

写真提供：(公財)いきいき岩手支援財団

## 北上市の生活支援体制の状況について

続いて、北上市長寿介護課包括支援係の高橋係長から、**北上市全体での地域づくりの取り組みについて**、今回の研修は生活支援コーディネーターの現地研修会であることから、**生活支援体制整備事業との関わり方の視点**でお話しいただきました。

いわゆる平成の大合併よりも前の平成3年に合併し、まちづくりを進めてきている北上市は、平成18年から、それまで市の社会教育施設として直営で運営していた公民館を廃止して、市内16地区に地区交流センターを設置し、地域の自治協議会が地区交流センターの指定管理者として受託。地域の自治組織が、地域の社会教育の拠点と地域づくりの拠点という両面を併せ持ち、地域で地域の方を雇用し運営していくという政策の大きな転換がありました。

地域包括ケア的には、市内に14の社会福祉協議会支部があり、基本的には地区交流センター内に設置され、地域づくり組織と社協支部の機能が一緒に入り、**福祉分野でも地域づくりであるということから一体的に進められている**とのことでした。

北上市の生活支援体制整備事業は、平成28年から検討が進められてきたそうですが、「新しい事業をやらなければならないから、新しい制度をつくる」ということではなく、「地域のことは地域で考える」という体制が既にできていたので、それを活用する形で進めているとのこと。**これからの高齢化や担い手不足、高齢者の生活にまつわる課題が、イコール地域の課題**であり、地域づくりとして高齢者の生活支援に取り組める体制づくりを進め、もっと後押しをしていきたいと熱い思いをお話しいただきました。

また、高齢者の新たな課題に取り組むときは、高齢者担当課だけで解決できることには限りがあるため、まずは市役所内で担当課と連携し、例えば、横断的な組織を立ち上げるなど、といったことを進めれば、いろいろな課題が解決できるのではないかと、地域共生社会も見据えた検討を進めていければよいのではないかとのことでした。

「**庁内連携**」というキーワードは、参加者アンケートでも「大事だと思った」というご意見が多数寄せられていました。



高橋直子包括支援係長

## 情報交換会

最後に、研修に参加した13市町村から、生活支援体制整備事業の取り組みや、日頃の業務の悩みなど多岐にわたる内容について、発表が行われました。



研修会終了後、あすくろ号を視察

## ～編集後記～

「ちいきで包む第26号」をご覧くださいありがとうございます。

今回は令和2年10月に開催した、生活支援コーディネーターの現地研修会の内容について御紹介しました。

お忙しい中、また、コロナ禍にもかかわらず、当日御講演いただきました講師の方々、研修に御参加いただいた方々、関係者の方々に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

取材班も、小田島事務局長の「自分の住む地域を何とかしたい！」という熱い気持ちと、いろいろな活動を試行錯誤しながらも「地域の人たちのためになるなら！」と邁進し続ける御姿を目の当たりにし、たくさんの刺激を受けました。

参加者アンケートでは、「実際に講演と見学が一緒にできるのはよい」、「情報交換会でいろいろな市町村の話を知ることができてよかった」というご意見が多かった一方で、「講演も情報交換会ももっと時間がほしかった」という積極的なご意見もいただきました。

今後も皆さんの地域での活動に有意義な研修の企画をしていきますので、引き続きよろしく願いいたします。

## がんばる地域の情報、大募集！

「ちいきで包む」編集部では、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域ぐるみで高齢者を支える特色ある取組などを募集しています。下記まで情報をお寄せください。

「ちいきで包む」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問い合わせ先）

岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：金） 令和3年1月12日発行

TEL：019-629-5432 FAX：019-629-5439 E-mail：AD0005@pref.iwate.jp